

**令和 7 年度 第 1 回
日田市地域公共交通確保維持協議会 会議録**

開催日時	令和 7 年 6 月 20 日（金） 14:30～16:30
開催場所	日田市役所 7 階 大会議室
出席者 (名簿掲載順)	・ 日田市長 棕野美智子 ・ 九州運輸局大分運輸支局 首席運輸企画専門官 野中綾介（代理出席） ・ 日田バス株式会社 代表取締役社長 本田哲 ・ 日田市タクシー協会 会長 足立茂 ・ 一般社団法人大分県タクシー協会 専務理事 江熊春彦 ・ 一般社団法人大分県バス協会 専務理事 望月郁男 ・ 日田バス労働組合 執行委員長 下城実 ・ 日田市自治会連合会 副会長 森高重春 ・ 日田市自治会連合会 理事 柿本靖生 ・ 日田市東部地域包括支援センター 管理者 江藤説子 ・ 日田市南部地域包括支援センター 管理者 三笥智恵美 ・ 大分県西部振興局地域創生部長 阿孫正明（代理出席） ・ 大分県日田土木事務所 森崎貴嗣 ・ 大分県日田警察署交通課 交通安全教育係長 姫野史尚（代理出席） ・ 日田市地域振興部長 宮木哲也 ・ 日田市福祉保健部長 河野健資 ・ 日田市文化スポーツ観光部長 瀬口英隆 ・ 日田市土木建築部長 大友得央 ・ 日田市教育次長 衣笠雄司 ・ 東京大学名誉教授／一般財団法人日本自動車研究所長 鎌田実 ・ 日田市タクシー協会 前会長 石川尚文（オブザーバー） ・ 大分県企画振興部交通政策局地域交通・物流対策室 主任 清家卓（オブザーバー・代理出席）
欠席者 (名簿掲載順)	・ 九州旅客鉄道株式会社 日田駅長 田村直樹
議事	(1) 議案 ① 令和 6 年度 決算・監査報告 ② 令和 7 年度 事業・予算（案） ③ 令和 8 年度（R7. 10. 1～R8. 9. 30）フィーダー補助金の計画（案） (2) 報告 ① 日田市地域公共交通利便増進実施計画の策定経過 ② 花月地区における住民の支え合いによる移動支援の取組 ③ 広報ひた 5 月号公共交通特集

議事概要

第 1 号議案 令和 6 年度 決算・監査報告

〔主な説明内容〕

- ・令和 6 年度は、協議会を 5 回(対面 2 回、書面 3 回)開催し、市内循環バスひたはしり号の運行内容見直し(バス停移設、運行経路等)、乗合デマンドタクシー大山線の実証実験継続、うきは市予約制乗合タクシーの乗り入れ等について審議を行った。また、運賃料金部会を 2 回(対面 1 回、書面 1 回)開催し、うきは市予約制乗合タクシー及び乗合デマンドタクシー大山線の運賃について審議を行った。
- ・関係帳簿等により監査を行った結果は、適正であり決算書のとおり相違ない。

〔意見・質疑等〕

- ・なし。

〔審議結果〕

承認。

第 2 号議案 令和 7 年度 事業・予算(案)

〔主な説明内容〕

- ・令和 7 年度の重点的な取組として、利便増進実施計画の策定による交通網の再編や、それに伴う代替交通の整備、地域住民の互助による移動サービスの創出支援等に取り組む。

〔意見・質疑等〕

- ・交通空白地域に対する代替手段の検討や、効率的・効果的な交通網の充実の取組も非常に大事だが、供給サイドをいくら充実しても使ってもらわないと意味がない。そういった意味では、高齢者のお出かけ機会の創出の取組には力を入れてもらいたい。よく自治体の交通担当の方と話をすると週 1 回のお出かけのための交通手段を考えている場合が多いが、週 1 回程度のお出かけではフレイル予防とは言えない。そのため、週 3 回は出かけられるような目的も併せて用意をするということが非常に大事。そういった取組を考えるにあたっては、国交省の補助金の他、厚労省の介護予防の総合事業など色々なものがあるので、それらを上手く使って地域で色々なお出かけの仕組みづくりを頑張ってもらいたい。
 - 今回新しく始まった住民支え合いによる移動支援の取組については介護予防の総合事業も活用している。福祉サイドの地域包括支援センターとも協力をしながらやっていきたい。
- ・バス停に行くまでの能力が無い方がいるため、介護予防により能力を維持する取組が必要と感じている。介護予防をしてバス等の公共交通機関を使っただけが大事。高齢者の外出の場という点で言うと、日田市には週一通いの場が 100 箇所以上存在する。まだまだ設置できていない地区もあるので、包括支援センターも支援をしながら通いの場の設置を広めていけたらと思う。また、高齢者の外出目的としては地域の公民館活動などもあると思うが、どのような活動があるのかわからないという人も多く、参加者が固定されていることが多い。包括支援センターは介護予防に関する取組は把握できているが、その他にも地域の社会資源も把握して、地域の高齢者に伝えていくことも必要だと感じている。

〔審議結果〕

承認。

第 3 号議案 令和 8 年度（R7. 10. 1～R8. 9. 30）フィーダー補助金の計画（案）

〔主な説明内容〕

- ・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金（フィーダー補助金）は、国の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」の補助メニューの 1 つで、幹線系統を補完する、赤字の支線（フィーダー）の運行経費を補助するもの。
- ・補助金の申請には、運行期間開始前に、補助申請しようとする系統の概要や目標等を記した計画を国に認定を受ける必要があるため、今回その計画の申請内容について審議をお願いするもの。対象の路線は市内循環バスひたはしり号 A・B・C コース、日田バス五馬線。（令和 7 年度から変更なし）

〔意見・質疑等〕

- ・地域公共交通計画を策定した際の考え方について聞きたい。計画の最終年度である令和 9 年度の最終目標値を計画策定時の 10%増しと設定しているが、どのような考えで設定したのか。また、その目標を達成するための手段として、新たな利用者を増やすという方法と、現在利用している人の利用回数を増やすという方法の、どちらに力を入れようとしているのか。
 - 計画を策定した令和 4 年度時点では、コロナ禍から公共交通の利用者が完全に回復をできておらず、鉄道や路線バスといったそれぞれのモードの利用者数が平均するとコロナ禍前の約 9 割という実績であった。そのため、そこをコロナ禍前の水準まで戻すことを目標にするということで、1 割増しという設定をさせていただいた。新たな利用者の獲得か、既存の利用者の利用回数を増やすのか、どちらに力を入れるのかという点については、計画に明記をしているわけではないが、公共交通の利用方法を高齢者に教える取組など、どちらかというところと新規の利用者を増やす取組に力を入れていきたいと考えている。
- ・JR 日田彦山線が BRT 化して利用者が増えたかと思うが、どれだけ増えたのか教えてほしい。
 - 令和 3 年度の鉄道及び代行バスの利用者数合計が 1 日平均 715 人で、令和 5 年度は 763 人、令和 6 年度は 917 人となっている。その中の内訳として、令和 5 年度は代行バスが 22 人であるのに対し令和 6 年度は BRT が 132 人であり、代行バスから BRT に代わって 6 倍の利用者に増えている。

〔審議結果〕

承認。

報告 1 日田市地域公共交通利便増進実施計画の策定経過

〔主な説明内容〕

- ・令和 7 年度中に地域公共交通利便増進実施計画を策定する。地域公共交通利便増進事業としては、イメージ図（資料 P. 15）に記載した取組を検討中。
- ・地域公共交通確保維持改善事業費補助金の交付決定を受けた。（3, 128, 000 円）
- ・計画策定調査業務に係る公募型プロポーザルを実施し、株式会社九州経済研究所を契約候補者に選定した。

〔意見・質疑等〕

- ・策定を予定している利便増進実施計画は大臣認定をとる予定はあるか。
 - 目指している。
- ・大臣の認定となると計画の記載内容など細かい部分も出てくるので、運輸支局へこまめに相談をしていただきたい。
- ・コンサルに策定業務を委託するとコンサルの型にはめた計画をサッと作ってしまい、あまり口を出せない雰囲気になることがあるため、委員の皆さんの意見を聞ける体制を十分にとっていただきたい。
- ・ひたはしり号を、例えば天瀬や大山、大鶴まで延伸はできないか。延伸してもらえればバス停までの移動は有償ボランティアなどで補えると思う。また、スクールバスの空き時間も活用できないかと思う。今すぐどうこうというわけではないが提案として。

報告 2 花月地区における住民の支え合いによる移動支援の取組

〔主な説明内容〕

- ・令和 7 年 4 月から花月地区において住民支え合いによる移動支援の取組が「花月地域まちづくり協議会」により開始された。
- ・自宅から花月コミュニティセンターまでの移動を支援する。
- ・登録された有償ボランティアがマイカーを活用して送迎する。

〔意見・質疑等〕

- ・花月コミュニティセンターとはこういった位置づけの建物か。
 - 市が協議会へ管理を委託している建物で、週 1 通いの場などのサロン活動を実施している場所である。
- ・花月コミュニティセンターから公共交通機関を使ってどこかに行くということは可能か。
 - 大交北部バスの中津日田線が目の前の道路を運行しているが、最寄りのバス停までは数百メートル離れている。花月コミュニティセンターに集まり、そこからバスやタクシーで市内中心部に行くなどといった計画は、団体の中で協議はされているかもしれないが、具体的に実施する内容としては聞いていない。
- ・山田町に続いて花月地域で住民の支え合いによる移動支援が始まったが、市が支援する地域の基準はあるのか。
 - 市では昨年、公共交通が十分に提供されていない地域において住民の支え合いによる移動支援を立ち上げるため、市内全域を対象とした導入セミナーや、各地域での地域懇談会等を実施した。そういった取組をしてきた中で、自分たちで実際に移動支援に取り組んでみたいという相談があった地域を対象として伴奏支援を行い、結果として山田町・花月地区という 2

つの地域で形になったところである。

- ・これから活動を広めていくにあたり、周囲の人が見た際に「住民が安い金額で自家用車を使って運ぶ」といった表面だけを捉えられないよう、ここに至るまでにどういった考えがあったのかという点や、これはあくまでも公共交通の補完であるという点をしっかりと発信してってもらいたい。この地域はタクシーの仕事とバッテリーはしないという認識で良いか。
 - 住民の支え合いによる移動支援を始めるにあたり、タクシー協会とも協議を重ねてきた。今回の花月地区については、自宅から花月コミュニティセンターまでの移動であり、その区間にタクシーを使用している人は今までいなかったと認識している。
- ・許可登録不要のやり方と、認可を受けて行う通常のバスやタクシーと、その真ん中くらいの立ち位置に自家用有償旅客運送というものがあり、事業者協力型という制度もある。将来的にはこちらの活用も考えていてもいいのかなと思う。事例として、事故を起こした際に、その事故がトラウマになりボランティアの方がその地域にいられなくなるといったケースもあった。安全に関してはすごく慎重に取り組んでほしいと思う。

報告 3 広報ひた 5 月号公共交通特集

〔主な説明内容〕

- ・公共交通の注目度向上や利用促進を目的に掲載した市報の特集記事について報告するもの。

〔意見・質疑等〕

- ・ホームページに掲載されているのを見て良い特集だと思った。公共交通を担う人材の確保という点で言うと、大分運輸支局でも県内の高校を訪問し、就職先としてバス運転手やタクシー運転手という選択肢もあることを進路指導の先生へ話をしている。これは昨年を引き続きの取組で、日田市内の高校も訪問している。今回の市報の特集のように、今後も引き続き人材確保の取組は実施していただきたい。
- ・非常によい内容だと思う。特にマイカーの維持費とタクシー料金の比較は良い視点だ。公共交通を使った方が実は安上がりだということを見える化したのは面白い。車を運転しなければ移動先で気軽にお酒も楽しめる。そういった利点を事例で集めて、公共交通をもっと使ってもらえるよう広報していくのもよいと思う。
 - BRT の路線沿いに蔵元がいくつもあるので、イベントの時などに周知していきたい。